

【議事録】 令和6年度 下関市立美術館協議会

日 時 令和7年（2025年）3月18日（火）午後2時から午後4時まで

会 場 下関市立美術館 会議室

出席者 協議会委員（出席10人）

岩永 崇志、清永 修全、青木 博美、藤井 悦子、重井 民雄、戸崎 由弥、
和田 健資、五十嵐 美紀子、山中 奈津子、伊東 丈年

下関市教育委員会

教育長 磯部 芳規

下関市立美術館

館長 岡本 正康、副館長 榊谷 範一、館長補佐 渡邊 祐子、
会計年度任用職員（学芸員） 高村 典子、片岡 祥子、久光 真央

傍聴者 4名

次 第	発言者	内 容
1 開会	事務局 (副館長)	定刻になりましたので、ただいまから令和6年度の下関市立美術館協議会を開催します。まず初めに、本日の会議の配付資料はお手元にお配りをしております。1番上に委員名簿、2ページ目に協議会の次第、3ページ以降が資料となっております。後程説明にあわせて順々にご確認いただくようになりますのでよろしくお願ひします。それから、委員の皆様には現在開催しております特別展「グライズデール・アーツと下関」の関連の図録、ポスターチラシなどを配付していますので、また時間がある時ご覧いただければと思います。
2 委員及び出席者紹介	事務局 (副館長)	それでは、進行に入ります。本協議会の委員は、令和5年9月から本年、令和7年8月までの2年間を任期として、10名の方に委嘱をしているところです。本日出席の委員は全員の10名でございます。定数の過半数を上回りますので、下関市立美術館の設置等に関する条例施行規則第8条の規定により会議が成立していることをご報告いたします。本日の協議会は公開で行われ、議事録は後日下関市ウェブサイトにて公開する予定です。なお、本日傍聴の方は3名いらっしゃいます。 (※会議の途中で傍聴者1名が加わったため、傍聴者数は4名) それでは、次第に沿って進行させていただきます。まず、本

		<p>日ご出席の委員のご紹介をいたします。お名前、役職名等は、お手元の委員名簿に記載のとおりでございます。事務局からの紹介はこれに代えさせていただきます。しかし約1年ぶりの会議開催ということと、お1人委員の交代もございましたので、改めましておひとりずつ、一言ずつ自己紹介をいただければと思いますので、お願いいたします。清永委員から時計回りをお願いいたします。</p> <p>(自己紹介は省略)</p>
3 教育長挨拶	<p>事務局 (副館長)</p> <p>磯部教育長</p>	<p>続きまして、下関市教育委員会 教育長 磯部芳規よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆さん、こんにちは。磯部でございます。向こう側の山を見ると、まだ白くなっているということで、びっくりして今日出て参りました。3月のこの時期になって「お寒い中」というのもおかしいのですが、本当にお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。また、平素から下関市立美術館の運営に関して格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、この下関市立美術館でございますが、令和6年度におきましても、市民が芸術に親しみ楽しむことができる魅力的な展覧会の企画、また開催に努めて参ったところでございます。</p> <p>主なものをご紹介します。まずは、昨年の6月から7月にかけては「菊舎－旅と友を愛したひと」と題して、下関市立歴史博物館との共同企画展で開催しております。こちらの方は、地元であります田上菊舎に焦点を当て、美術館と歴史博物館が、それぞれ設定したテーマごとに作品を展示するという取り組みでございます。菊舎の魅力に迫ったのではないかと考えます。</p> <p>また8月から11月にかけては、同じ下関出身の漫画家 青池保子先生の特別展「漫画家生活60周年記念展 青池保子 Contrail 航跡のかがやき」を開催しております。こちらは開催中にご本人も来館いただいたということで、来館されたお客様には大変喜んでいただいたと考えております。</p> <p>また現在は、特別展「グライズデール・アーツと下関」を開催中です。私も先ほど少し行って参りましたが、途中で帰って参りました。また時間を見て行きたいと考えています。こちらも下関出身でアイランド在住の写真家・藤田需子氏が橋渡しとなって、2017年に菊川町貴和の里で交流があったことを通し、地域プロジェクトの歩みを軸にして関与するアーティスト</p>

		館内催事参加者数一覧でございます。そして別紙5が令和6年度の収集美術資料一覧でございます。別紙6が令和6年度の普及教育事業の実施詳細。別紙7が令和7年度 下関市立美術館当初予算一覧でございます。こちらを合わせての説明といたします。
(1) 施設概要	事務局 (館長)	<p>それでは議題1 令和6年度事業報告についての説明でございます。まず施設概要、これは現在の美術館の状況でございます。建築の状況、それから人員の状況、その他運営体制について書いております。こちらは昨年度お示ししたものと基本変更なく運営しておりますが、人員の現状について、ここでご紹介をさせていただこうと思っております。下関市教育委員会教育部美術館ということでございますが、職員数が10名となっております。昨年度の令和5年度の末に学芸員が1名、大学の教員になるということで退職して減となっております。その補充という形で令和6年度から、会計年度任用職員という形ではございますが、非常勤の学芸員が新しく2名参っております。</p> <p>ここで改めまして出席している者の紹介をさせていただこうと思っております。座ったままで失礼いたしますが、まず私、館長の岡本正康でございます。そして副館長の榎谷範一でございます。そして令和6年度から館長補佐となりました渡邊祐子です。そして今は別の公務で席を外しておりますが、主任で学芸員の関根佳織がおります。もう一人主任主事で庶務、総務の担当をしております平田政夫で、今は事務所の方におります。そして会計年度任用職員の学芸員で出席しているメンバーを紹介します。まず、高村典子でございます。そして今年度、令和6年度から着任した者で、まずは片岡祥子でございます。もう一人が久光真央でございます。久光につきましては新年度の7年度から常勤職の学芸員として勤務することになりますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いたします。美術館の施設概要に関する説明といたしましては人員の変更についてご説明いたしました。</p>
(2) 予算	事務局 (館長)	それでは2番目、予算でございますけれども、令和6年度の予算の状況、これは別紙2のとおりでございます。歳出予算1億2868万9000円。なお、これは正規職員の人件費は含んでいません。歳入については特定財源のみを示しておりますが、費目はご覧のとおりで、予算額としましては3832万2000円です。その他が一般財源となります。今回、主にご説明する部分としましては、美術館の歳出予算で美術館改修業務というところで1400万円というのを組んでおりますが、こ

	<p>事務局 (副館長)</p> <p>事務局 (館長)</p>	<p>ちらは美術館の現在進めております施設改修の一連の流れの中になります。空調設備の改修に取り組んでおります。ちらは主に展示部門の空調の改修のことをございます。開館から40年以上を経て、施設が老朽化・旧式化が著しく、その対応というのがここ数年来の大きな課題となっております。空調機の改修につきましては3年がかりの2年度目をございまして、基本調査から始まり、今年度は2年目で実施設計、来年度の7年度によいよ本格的に策定した設計に基づいての空調機の改修を行うということをございます。この1400万円というのは、こういった施設整備に関わる費用というところをございます。ですので、こういった改修に係る予算を除けば、約1億少々の予算が歳出予算というところをございます。</p> <p>では、続きまして(2)令和5年度の予算についての説明をございます。別紙3をご覧ください。令和5年度の歳出予算は1億4328万9000円ですが、これに対しての決算額は1億3032万8000円となっております。この差額につきましては、また先ほどの空調改修の件で説明したところと同じ美術館の改修業務の工事請負費の差額ということになります。ちらについては、副館長から説明をお願いします。</p> <p>はい。入札にあたりまして、予定の予算より金額が安くなったという内容となっております。</p> <p>そういったところが予算と決算の差額に関する理由をございます。そして歳入のところですが、歳入の当初予算額が5133万3000円が、決算額4395万1000円となっております。ちらの差の大きな部分は美術館の施設使用料に関わる部分をございますけれども、展覧会の観覧料の予算と決算額が差額として出ているところをございます。ちらは展覧会の来館実績の話にも繋がってくることでありますので、次のところと連動して説明いたします。では2の予算に関しましては以上のとおりをございます。</p>
<p>(3) 業務別事業実施状況</p> <p>ア 管理運営業務</p>	<p>事務局 (館長)</p>	<p>それでは3番目の事業別事業実施状況についての説明をございます。美術館の業務をございますけれども、主に5つの区分として事業を運営しております。まず1番目は管理運営業務、2番目は展覧会開催業務、3番目は美術作品資料収集保管業務、4番目に調査研究業務、そして5番目に普及教育業務ということをございます。これに加えて先ほども説明しました、施設の改修にかかる業務というものがこの数年来に加わって</p>

		<p>いるところでございます。</p> <p>では業務別に概要を説明いたします。まず（１）管理運営業務ですが、こちらは美術館の施設管理及び運営に関わる業務を行うものです。令和６年度の主な事業は、今開催しております附属機関である美術協議会の開催、そして施設の改修に関わる業務。それから６年度のトピックといたしましては、観覧料等のキャッシュレス決済の導入を行ったところでございます。展覧会に来られたときにお気づきになられた方もあったかと思いますが、受付でキャッシュレスの対応もいたしております。こちらにつきまして、今のところ４割ぐらいの方がキャッシュレスを利用されています。導入いたしまして早速ご利用も順調に進んでいるところです。また実施の具合など知りたい場合はご意見などいただければと思っております。では資料に基づいて説明を続けます。ア 令和６年度下関市立美術館協議会は本日令和７年３月１８日、現在開催しているところでございます。イ 施設の改修ですが、先ほども予算のところでも申しあげましたけれども、業務名としましては、空調機（展示部門）改修実施設計業務とし、実施期間令和６年７月２４日から令和７年３月１７日までとなっております。所要経費、１３３１万円ということで、空調機の実実施設計を行ったところでございます。令和７年度はこれに基づいての工事をを行います。そして、ウ施設使用ですが、展示室、造形室、それに伴う陶芸窯についての利用について表をまとめております。展示室、講堂の施設使用というのは、展覧会の開催を目的とした利用です。個人の方、団体の方が展覧会を開催するために、展示室４と講堂を対象にしております。今年度は２０件の利用があり１３７日の使用ということでございます。造形室は、美術館の地階にアトリエとして使っていただける造形室がございます。こちらで絵画の制作や焼き物の制作など、様々な造形活動ができる施設というのがございまして、こちらを申請に応じてご利用いただく形となっております。こちらの利用件数は表のとおりでございますけれども、１０５件で使用日数１３７日、利用された方の人数は１５８１人でございます。これについて、窯場、陶芸窯というものがございます。こちらは陶芸の活動されている方が焼き物の焼成を行う窯が、美術館の駐車場所の奥にございます。こちらで焼き物の活動をされております。以上が管理運営業務に関する内容でございます。</p>
イ 展覧会開催業務	事務局 (館長)	<p>そして（２）展覧会開業務です。６年度につきまして、企画展示は３本開催しました。そして所蔵品展示については４本を</p>

実施しております。その他の展覧会の開催としましては下関市芸術文化祭・美術展というものがございます。そしてその他に、先ほどの（１）のところの部分でもご説明いたしましたが、施設使用による市民ギャラリー、市民の方の発表の活動２０本が美術館で開催されました。令和６年度につきましては、現在開催している「グライズデール・アーツと下関」の展覧会が閉幕する３月２３日をもちまして全日程を終了する予定です。そしてこの来館の状況につきましては、別紙４の資料をご覧ください。一覧表にまとめております。所蔵品展示、企画展示、特集展示、館内催事、市民ギャラリー・その他といったカテゴリーに分けて一覧にしております。こちらの詳細は資料をご確認ください。来館者数は、３月９日までの集計でございます。こちらの数字をご説明いたします。美術館が主催の展覧会が計１万２０６７人。その関連の館内で行う催事の参加者が８９１人。市民ギャラリーと美術館の主催でない展覧会の来館者が１万３６６１人ということでございます。合計２万６６１９人。３月９日までの開館日数は２６０日となります。なお、前年度令和５年度に来館者数は、合計４万５５２８人。年度内の開館日数は２４５日。令和５年度は開館４０周年ということで、４０周年記念展を２本開催しているということでございます。こういったところの差というものもでございます。ちなみに、状況についての説明ですが、所蔵品展示につきましては、令和６年度は４０９４人の方にお越しいただいております。ちなみに令和５年度は３２６１人ということで所蔵品展については昨年度５年度よりも６年度の方が来館者数は増加しています。一方で、企画展示は、今年度比較的規模の小さなものを連ねる形になっておりますので、非常に少なくなっておりますけれども、企画展示に来館された方が７９７３人という状況でございます。ちなみに、令和５年度は４０周年記念展もあったということで、２万７２５人という成績でございます。開館日数も令和５年度の方が２０日ほど長いという中での比較ということになります。そしてもう１つ情報として、市民ギャラリー・その他、美術館主催ではない展覧会・イベントに関して、下関市芸術文化祭・美術展も含めての計でございますが、こちらが１４０日間で、１万３６６１人という状況でございますが、昨年度の５年度は１万７６８０人、約４０００人ほど今年度が少なくなっているという状況です。市民ギャラリーの来館の状況のところも非常に少なかったというところでございます。こういった辺り、またご議論の中で、ご助言などをいただければと思っております。以上が来館者数の状況についての説明でございます。

そして、今年度開催した展覧会についての展覧会のタイトル、開催期間、開催日数等についてのデータは資料のア 企画展示、イ 所蔵品展示、ウ 特集展示に表題と開催日数など並べているところがございます。令和6年度は、先ほど教育長のご挨拶にもありましたが、企画展としては「菊舎 旅と友を愛したひと 一旅編一」を下関市立美術館で行いました。そして特別展として「青池保子展」、そして現在やっております「グライズデール・アーツと下関」展というラインナップでございました。そして、こういった美術館の館内で行っている展覧会だけではなく、展示活動として出張展示部門もがございます。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、下関市役所に専用の展示のケースをいただいております、こちらで定期的、1ヶ月から2ヶ月の期間ごとに展示替えをしています。美術館本体の展覧会と連動するような形で作品や資料をピックアップして市役所の中で展示しております。場所は本庁舎西棟1階のエレベーターホールです。市役所へ足をお運びの際はぜひ覗いていただけると幸いです。こちらはそもそも下関市ボートレース企業局に設置していただき、美術館が管理していたものですが、こういった出張展示なども活用して、今後も美術館の主催展ばかりではなくて地域の美術の紹介にも努めていければと考えています。そして、オ その他の展覧会は下関市芸術文化祭・美術展です。こちらの会期は10月26日から11月9日までの開催いたしました。こちらの主管課は、下関市観光スポーツ文化部の文化振興課でございますけれども、下関市教育委員会も共催し、美術館が美術展の会場として担当しております。この市美展の開催につきましては、展示に関わる部分なども担当しているところがございます。今年度の市美展は2201名がご来館ということで、市美展が一番少ない形になってしまい残念な状況ではございますが、やはりちょっと少し変わり目のところにきているところかと思えます。そして、その他の市民ギャラリーですが、先ほど申したとおりで、利用の件数もそうですが、来館者数も減少しております。新しい取り組みとしましては、館内の展示室・講堂だけではなく、美術館の入り口前広場の屋外スペースでいけばなの団体の展覧会をしていただいたのですが、屋外利用をもっといろんな形で試みていただけないかというふうに考えていて、このような草月流いけばなの団体の発表などは先例として注目されるものではないかと思えます。またこういったものを展示している際は足をお運びいただきたいと思えます。それでは、展覧会につきましては、以上でございます。

<p>ウ 美術作品 資料収集 保管業務</p>	<p>事務局 (館長)</p>	<p>それでは事業報告の(3)美術作品資料収集保管業務について、ご説明をいたします。</p> <p>美術資料と一口で申し上げましたが、作品及び関連資料の総称でございます。今年度も先日、美術資料収集審査会を外部の専門家の先生方をお招きし、開催いたしましたところでございます。今年度は収集審査会で85件の美術資料の審査を行い、いずれも収集を「可」とする答申をいただきました。今年度新たに収集する作品等の内訳ですが、寄贈84件、保管転換、これは市の施設から美術館の所蔵品として所管換えをするものですが、これが1件でした。作品の分類ごと、種類の内訳は、日本画1件、洋画1件、水彩・素描24件、工芸3件、資料56件となっています。件数別の内訳、こういった新しく収集するものを加えた上での現在の美術館所蔵の作品資料の一覧表を御覧ください。今回の85件を加えて、2646件の収集作品を所蔵しています。こちらについては一覧表で今回の収集内容を記載しています。別紙5をご覧ください。今回の注目、目玉となっているものは、洋画家 香月泰男さんの「関西旅行スケッチ」で、これは香月泰男さんのご遺族からの寄贈で、最晩年の亡くなる直前の取材旅行の中で制作された作品です。これは作家研究という意味でも非常に貴重なもので、また今後私どもばかりでなく、香月泰男と関係のある美術館・その他の機関などにも、広く活用されていく重要なものであらうと考えております。それとあわせて、赤間関硯の収集というものが今回大きなボリュームをもっています。下関市の代表的な伝統工芸の赤間関硯でございますが、近年美術館ではこちらの収集を所蔵者のご理解をいただき、かなりの数を収集することができています。近現代、一部江戸期のものがありますが、赤間関硯について体系的に研究し紹介していく大きなコレクションができつつあるので、内容につきましては研究紀要や所蔵品展示の中でもご覧いただけるように努力しているところでございます。</p> <p>そして、こういった収集している作品の活用については美術館で主催して行う展覧会ばかりではなく、所蔵品貸付という形でも館外で紹介されているところですが、今年度中に行いました館外への作品の貸付は、美術館、博物館などの専門施設を対象に相互協力の中で行う事業でございます。今年度につきましては2件の貸し出しを行っているところでございます。岸田劉生の作品と児玉希望の作品というものが企画展示ということで館外に出品されているところですが、コロナ禍以前に比べると作品の貸し借りは以前と比べると少なくなってきましたが、重要な作品はこの</p>
---------------------------------	---------------------	--

		<p>ような形で貸し出され、下関市のアピールにもつながっているところでございます。</p>
エ 調査研究業務	事務局 (館長)	<p>続きまして、(4) 調査研究業務ですが、学芸員の平素の基礎的な活動でございます。資料調査、収集を行っています。こちらをベースにして展覧会の開催業務、収集業務が成り立っていくのですが、今年度は研究紀要を刊行する予定です。今回は第18号となります。2年に1回発行しております。これは3月の予定ですので、完成したらお手元にお届けし、また売店等で販売し、頒布していくものでございます。またご覧いただければと思います。</p>
オ 普及教育業務	事務局 (館長)	<p>そして(5) 普及教育業務についてです。今年度もアからオまでの項目を挙げていますが、ギャラリートーク・講座をはじめとするイベントなどを行っているところです。実施の集計については別紙6の資料をご覧ください。一覧表にし、行った事業と参加人数などを入れております。美術館の館内で行うギャラリー・トーク、講座、実技講座、その他ワークショップもでございますが、近年盛んになっているものとして出前講座、出張講座のようなものですが、これが増えております。学校への出前授業もでございます。それ以外にも生涯学習に関わるものとして、社会人向けで行っているものもでございます。外部からの要請に応じて学芸員が出張して、レクチャーを行ったり、実技も含んだワークショップを行ったりしています。詳細は細々していますので、またゆっくりと表をご覧ください。資料の見方が難しいですが、美術館の館内で行われているものと館外で行なわれているものの2群に分けて、大まかには資料を作っています。</p> <p>主に美術館のなかで行なわれたもので、美術館提供のプログラムで館内で行ったものの来館者が1908人で、その他出前講座のご利用は657人です。そのほか学校の関係ですが、学校行事等のなかに美術館のプログラムを組んでいただくものもでございます。こういったものを含めると、非常に大きな数になってきます。こちらの方もいろんなご要請がありましたら、その都度、どんな形でやるかも含めて対応したいと考えています。いろんなニーズのご提案もいただければと思います。その他、博物館施設の1つとしての美術館の役割として、博物館実習と申しまして、学芸員資格の取得に関する実習の受け入れがあり、こうしたものを含めて大学との交流も行っているところです。このような形で、博学連携、つまり博物館と学校の連携事業につきましても美術館の一番中心的な事業でもござ</p>

		<p>いますので、進めていっているところです。こういったあたりのご要請もいただければと思います。</p> <p>最後に広報関係です。広報印刷物の作成で本年度も年間スケジュールを出しています。次年度の2025年度の展覧会スケジュールについては、この3月下旬には発行し、皆様のお手元にお送りする予定です。その他随時、Webサイトを利用した、デジタルの発信もしています。毎年同じことを申ししていますが、公式ウェブサイトのほか、X、Facebook、YouTubeチャンネル、Instagramを運営しています。こちらの方も随時ご確認をいただき、情報の拡散などにもぜひご協力をいただければと思います。それでは以上が令和6年度の事業報告です。</p>
<p>質疑</p>	<p>清永会長</p> <p>伊東委員</p>	<p>ありがとうございました。ただいまの説明、内容についてご質問やご意見などあればご発言をよろしくお願いします。</p> <p>昨年の全体の企画展覧会を見た印象ですが、所蔵品はとてものろんな工夫を凝らして面白くなっているなという印象があったのですが、本日数字を見て所蔵品展の入館者数が増えているのはとても良い傾向だと思いました。ただ作品を展示するだけでなく、非常に面白い、楽しい、見に来た人がいろいろな体験ができるなどの工夫がたくさんありましたので、さらにこれからもっと新しい経験ができるような所蔵品展を期待したいと思っています。またサブカルチャーが現在はやはり強い傾向にあります。漫画のほうは非常に好調な入館者数だったので、年に一度はこういったサブカルチャー的なものがあることによって若い方や好きなファンの方が来られると思うので、今後もこのようなサブカルチャーの展示にも期待したいと思います。あと、現在開催中の「グライズデール・アーツと下関」は、個人的な感想として、日本の柳宗悦さんの民族運動に通じるようなものがあるのかなと感じています。プロやアマチュアもなく、純粹に芸術を楽しむという基本的なものを再確認できるような展示だと思います。この展示の意義はこれからの生活の中で徐々に伝わってくるものと感じましたし、美術の普及のためにも結構重要な展覧会だったと思います。たくさんの来館者を呼ぶということよりも、来館者にアートというものを子どもから大人まで、プロからアマチュアも含めて楽しむ、敷居は決して高くないものであるというものを伝えるような、見に行った人がそれぞれで感じられるような展覧会なのかなと思いました。以上でございます。</p>

<p>清永会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいまのご発言ですが、今年度1年間の展覧会について総括していただいて、3つの観点から講評をいただいたということでした。</p> <p>1つは所蔵品展の工夫に対する評価。もう1つは、サブカルチャー的な要素を取り込んだ構成に対する評価。もう1つは現在の「グライズデール・アーツと下関」についての評価。これが玄人と一般市民の垣根を超えるようなスタンスが、かつての人間運動に通じるスタンスを持っているということで、そうした形でそのアートをより身近な生活空間で市民の方たちが感じ取ってもらえる企画ではないか、ということで3つの点から快い評価を賜ったと思います。それについて、あるいは他に、何かご発言等ございましたらお願いします。</p>
<p>和田委員</p>	<p>私は集客の所ですが、お聞きしたかったのが、去年の美術館協議会の時にSNSをもっと使いましょうということで、かなりチャンネルの母体が増えているということで、ご努力されているというのはあります。我々の担当事業者の方でも、今回の「グライズデール・アーツと下関」もそうですけど、行ってみたい、行きたいという際に下関が初めての方は行き方が分からないということが多いです。特に移動手段に関して、美術館で検索をかければ分かりますが、SNS上での交通手段をもう少し具体的に駅から乗り口が何番か、また金額がわかれば、小学生でも中学生でも、中学生は調べればわかりますが、小学生でもバスの乗り方というものを親世代からしても夏休みにチャレンジしたいというのがあります。ネット環境が整っていないとなかなか難しいため、家で見ることが多いということも聞いております。ここがポイントになりますが、実は観光のほうでは、乗り放題チケットが下関駅から長府まで、乗り降り自由で1000円というものが、大人も子どももあります。ここまでたどり着いて、そして、帰りに違う所に寄って歴史観光してみるというのも観光のほうでやっているの、そういったチケットがあつて、美術館に来るという手段をSNSで発信できればなあ、ということが1つあります。もう1つは、「しもまちアプリ」という下関市がやっている携帯端末のアプリがあるのですが、これには5万人ほどの登録者がいらっやして、ここに美術館の情報や、展示のカレンダーを貼るところがあります。そういうのを提供できているのかとお聞きしたいのが二つ目です。もう1つ、ずっと毎回私しか言っていないと思うのですが、Wi-Fiの設置についてです。今回は出来ているのでしょうか。出来ていなければ、コロナ禍の時にはしょうがなか</p>

		<p>ったのですが、この市民ギャラリーに入館する方々は、情報をその場で発信したいという方がいらっしゃるのではないかと、もしくはそこでやりとりする機会もあるのではないかとということもあるので、その設置状況のお話です。最後はもしかしたらもうやっていると思うのですが、芸術家とかの若手の育成についてです。来ていただいたり、見ていただいたりするということになるのですが、実際いらっしゃる方とか、そこの活躍する場とか、もしくは提供できるとか。そういう育成をしているのが多分市民ギャラリーのいろんな展示会や、普及教育の中でそれにチャンスを与えるというのがあります、若手芸術家のチャレンジできるような空間がもし提供できるのであれば、そういう方々がこの町から美術館に集うという集客の方に結びつくのではないかと考えます。そのあたりはいかがでしょうか。</p>
	清永会長	<p>ただいまのご発言でございますが、集客というアспектから3つのことをお話いただきました。1つは好意的な評価、もう2つがご質問ということであったと思います。最初のほうが、SNSのチャンネルを増やしてくれているということで、ここは一定評価できるのではないかと。ただ、その中で、下関に初めて来られる方や初めて美術館に来られる方のためのアクセスのフォローを同時にSNS等でも併せて発信すべきではないかということで、そしてさらには乗り放題チケットであるとか携帯アプリへのインフォメーションの掲示といったこともあわせて、このSNSのチャンネルを増やしたことに対してもう少しきめ細かなサポートを提供してはどうかということであったかと思えます。2つ目のご質問ですが、これも昨年度ご指摘の通り、Wi-Fiはどうなったのかということでございます。3つめに関しては、市民ギャラリーは若手の育成の場で、その情報発信の場として、より支援していけるようにしているのか、そういった機会を設けているのかということであったかと思えます。これについてご説明の方、館長よろしくお願ひします。</p>
	事務局 (館長)	<p>まずSNSでの基本情報の発信という点ですが、ホームページ等の整備ももっと進めていかなければいけないところですが、改めましてSNSでの交通情報は確かに必要であろうというところがございます。というのが、やはり電話でのお問い合わせでも非常に難しいわけです。バス乗り場は、まずどこで乗るか。長府方面行きに乗ればいいですという話では済まなくて、時々火の山に行くのがあり、あるいはパルク浜浦台がある</p>

みたいに、1番2番のバス停に来るものに乗れば必ず大丈夫ですとはいかないところもあることを踏まえると、そういった細かい説明はやはりSNSなどがうってつけであるかと思います。逆に、JR下関駅だけではなくて長府駅、それから新下関駅と、ちょうど3点の真ん中のような場に位置しているので、その難しさ、分かりにくさというのがやはり伝わりにくさになっているようです。聞くところによると「長府にある美術館だから長府駅で降りればいいのか」と思って長府駅で降りて、そこからどうしていいのか分からないので、歩いて来られる方がいたこともありました。その辺りをもっと工夫をして、細かく説明するとすごく文章量が多いような形になり、また難しさもあるので、視覚的なものを取り入れつつ、繰り返し情報を流していければと思います。ご提言のとおり努力をしてみたいです。そして2点目のWi-Fiですが、こちらもまた今年も全く進展がない状況でございます。しかしキャッシュレス決済を導入いたしました。なかなかWi-Fiの設備がうまくいかない。そもそも館内で電波が通りにくいという状況がございます。まずこちらの部屋も確かめていただくと、アンテナがほとんど立たないことが分かります。建物の構造が非常にがっちりしすぎているところがあり、難しいところもあるという風に思います。オンラインイベント等を開催しようという時に、そのあたりが非常にネックになってくると思います。会場にいてご参加される方の環境ということを考えると、今後そういうもののメニューを増やさないといけない中で、引き続き検討して、具体化に向けて進めていく方に考えたいと思っております。そして3番目の若手育成の件ですけれども、今回の「グライズデール・アーツと下関」もその一環という発想ではあります。そもそも今回イギリスのアート団体の紹介というところもございますが、出発点としましては下関とグライズデール・アーツという海外の団体を繋いだ方、これが写真家の藤田需子さんという下関出身のアーティストで、現在アイルランドに在住でいらっしゃいます。この方の存在を何年前前から我々も知っていましたが、何か一緒にコラボできないかというので連絡を取っていた中で、今回の展覧会のような形になってきたという面もあります。とはいえ、藤田さんも若手というべきかどうかというところではありますが、かねてから「潮流・下関」というシリーズもスタートさせておまして、2019年頃から毎年という形にはなっていないですが、市内在住もしくは市内出身のアーティストの方の企画展示という枠を設けていたところでもあります。この中で注目すべき活動されている方をピックアップ

アップしようとしたところでございます。ただし、ベテランの中でもあまり取り上げられてない方もたくさんおられる状況です。2020年度は「潮流・下関」で写真の展覧会ということで、グループSYSにおられた吉岡一生さんと清水恒治さんの展覧会を開催しました。開催当時お二人とももう90歳という状況にありましたが、ただそういったところも非常に重要だと思います。ベテランの方でも美術史に載っていくとか、そういった評価に載せていかなくてはいけない方もたくさんおられると思います。そういったところの再発掘、再評価ということとあわせての若手ということで、貸し会場の市民ギャラリーの中で「下関市美術協会」という団体があります。こちらはかつて「海峡美術家連盟展」といった名称でした。下関市内、それから市外の方も加わっておられます。この界隈の近隣地域の主要な作家さん方がグループとしてやっておられます。毎年夏に美術館を使用して展覧会を開催されていますけれども、こちらが公募部門を設けておられて、毎年公募をされています。ここには私ども学芸スタッフも、審査員という形で、参加させていただいたりしているところがございます。そういう中で受賞されている方の中には高校生の方もいらっしゃいまして、特に下関市美術協会さんは、高校生の青田買いのような活動をされており、非常に面白い活動をされている、10代の方もおられるということでもあります。そういうものが進んでいるところではありますが、ただここで、現実に表れるのが、20代から50代はすっぱりいない状況です。会員の方の中でも20代から50代がおられない状態です。かつては本当に30代から40代の方もおられましたが、それがそのまま新しいメンバーが入らず、加わずに、ずっと年齢層がスライドしているという状況であります。すごく空洞化している状況でもあります。ただ、いわゆるファインアートではない分野で活動を展開されている、表現者の方もいるのではないかとこのところで、どういう形で、これを今後見ていくか、漫画とかアニメーションといったサブカルチャーの部分だけではなく、さらに何か、どなたかご存じないでしょうか。あるいは手芸とか、ソーシャリーエンゲージドアートのような形で、作品を作らないけれども何かしらアートの発想をもって何か社会と関わって活動をされている方。そういう中で、このたびは藤田需子さんという方が浮上してきたわけですが。そういった皆さんのネットワークの中で、美術館にぜひ紹介していただければと思います。この前も学芸員の採用選考に来られた若い方々にも、これからどんなジャンルがくるとお思いますかという質問をそれぞれさ

	清永会長	<p>せていただいたのですが、「うーん。」という感じで、アニメや漫画の次は何でしょう。ゲームとかですかねみたいな話をしました。ゲームは私なんかも全くわからないところもございました、そのあたりのクリエイターの方はどのような場所でどのような活動をされているかっていうのは、しっかりアンテナを張っている方から、ぜひ情報提供いただければと思います。いずれにしても、企画展示のような形、それからイベント等の講師などとして、アート活動をされている方をお呼びするというような形でも、またこういう美術館との接点を持っていただいて、新しい活動の形が生まれてくるというものを探求していきたいと考えております。</p> <p>ありがとうございました。他に、この件について、令和6年度の事業報告ということで、発言、コメント等々ございましたら、ぜひ発言をよろしく願いいたします。それでは特にないようですので、これにて議題1については報告済みということにさせていただきますと思います。</p>
<p>議題2 令和7年度 事業計画に ついて (1) 予算</p>	<p>清永会長</p> <p>事務局 (館長)</p>	<p>続きまして、議題2ということで、令和7年度の事業について事務局の方から説明をよろしく申し上げます。</p> <p>引き続き岡本からご説明いたします。それでは、令和7年度の事業計画について、資料7ページからとなります。まず1 予算、令和7年度下関市立美術館の当初予算一覧、これは別紙7もあわせてご覧ください。令和7年度の予算につきましては、先の議会で予算の承認をいただいたところでございます。まず歳出の予算でございますが、1億5238万3000円となります。この中で美術館の改修業務を数年来取り組んでいるところでございますが、いよいよ美術館の改修の中でも、空調設備の更新というものを行うこととなります。こちらが、4110万円という予算、これは市債の対象事業として行うわけでございますが、こちらが非常に大きな部分を示しているのですけれども、この工事のために、令和7年度につきましては、年度の後半に休館をいたします。令和7年11月11日から令和8年3月31日の年度末まで休館して工事を行う予定でございます。展示部門の空調設備の更新でございますので、この間、空調が展示部門で出来ない形になりますので、展覧会の開催も不可能であるということでもございます。これについてはまた後程展覧会の事業あるいは普及教育の事業のところでもご説明</p>

		<p>いたしますが、休館中にどういう活動するかということも、また、ぜひ、いろんな御助言をいただきながら進めたいという風に考えておるところでございます。このほか、近年、光熱費の問題であるとか様々な資材費の高騰といったこともありまして、なかなか基本的な施設運営、非常に難しさが増しているところでございます。こうした中で、よりコンパクト化しながらも、より効果的なものはどういうものなのかというようなことを考えていけないといけないという状況でございます。このようななかで、歳入について、こちらも特定財源のみお示ししておりますが、施設使用料以下の歳入の予算がこちらでございますけれども、5926万9000円という予算を立てているところでございます。この中で大きな部分は先ほどの改修に関わる市債の収入でございますが、3690万円の社会教育施設整備事業債を受けて、7年度は事業を行うという形でございます。</p>
<p>(2) 業務別事業計画 ア 管理運営業務</p>	<p>事務局 (館長)</p> <p>事務局 (副館長)</p> <p>事務局 (館長)</p>	<p>そして2番目以降、業務別の事業計画についてご説明をいたします。同じく5つの部門、プラス改修工事でございます。(1)管理運営業務でございますが、ア 美術館の経常的管理及び運営業務。そして附属機関である美術館協議会の開催ということがございます。美術館協議会につきましては今期の委員の皆様は今年8月末までの任期ということでございますので、また夏に向けて改選をしていくという形になります。またそのあたりは色々ご相談をしながらの選任になりますけれども、少し附属機関のあり方について、運営の様子が変わってくるところでございます。</p> <p>下関市において附属機関のあり方についての規則が改めて制定されましたので、またそれに従って、相談しながらこの会が有意義なものになるように進めていきたいと思っておりますので、またご相談をさせていただこうと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
<p>イ 美術館改修業務</p>	<p>事務局 (館長)</p>	<p>そして、(2)美術館改修業務であります。先ほど申しました通り、美術館の改修を行います。</p>
<p>ウ 展覧会開催業務</p>	<p>事務局 (館長)</p>	<p>(3)展覧会開催業務について、内容としては企画展示を2本、そして所蔵品展示を2本開催する予定でございます。まず企画展示について、2本のうちまず1本目は、会期が令和7年5月31日から7月21日までを予定しておりますが、特別展</p>

「花の宮廷画家ルドゥーテ」というものを行います。こちらは、ナポレオン時代のフランスの宮廷画家、しかも植物画家として非常に高い評価を受けていた画家についての展覧会でございます。近年、ボタニカルアートといいますか、植物、現在の展覧会でも2階の所蔵品展示部門において下関の植物研究者の杏橋忠次郎先生の作品などを展示しておりますが、非常に人気の高い作品でございます。この非常に美しい植物図の数々をお借りして、展示をするというものでございます。なかなか貴重な作品でございますのでぜひご覧いただければと思います。こちらにつきましては、読売新聞社、KRY山口放送との共催で開催する予定でございます。

そして、企画展示の2つ目について、「古代エジプト、ふしぎ発見！ナイルの贈り物と秘められた物語」と題するものを、会を令和7年9月9日から10月19日の予定で開催します。こちらの展覧会は岡山県の岡山市立オリエント美術館との共同開催、共同研究を行なって共同開催するものでございます。共催としては毎日新聞社とtysテレビ山口の組み合わせで開催するものでございます。こちらにつきましては、下関市立美術館に古代エジプト、あるいは古代ギリシャ・ローマといった古代地中海世界の美術品のコレクションがございます。ご存じだったでしょうか。そういったところから始まるものでございまして、実は非常に貴重なものをこの美術館が持っております。日本で古代エジプトの文物に対する人気というのは非常に高いわけですが、これはそもそも何でだろうというところなんです。日本が近代化を進める中で、西洋というかヨーロッパ文化の源流というのは、古代地中海世界にありということになります。古代エジプト・古代ギリシャ・古代ローマといったところにあるのだということで、日本の近代の先人、明治時代から以降の先人たちというのは、西洋文化を学ぶのであればその源も学ばなくてはならないのではないかとということで、古代エジプトのものなども非常に早い段階から収集して日本に持ってこようとされていたわけです。明治末ぐらいから大正初めにかけていろんなものが日本に入ってきております。東京大学や東京美術学校、京都大学といったようなアカデミックなところで収集しているものもありますが、その他にもそういったところと連動して、民間で例えば銀行関係の資産家のような方が収集して日本にエジプト品等を持ってくるということがあります。実はこの下関市立美術館にある河村幸次郎コレクションの一部にそれがまとまった形で加わっております。明治末から大正の初めにかけて、イギリスで収集されたコレクションという

のがありまして、こちらが第二次世界大戦後に河村幸次郎さんが取得されて、そのコレクションが下関に寄贈されているということでございます。これは実は非常に由緒正しいものでありまして、大正の初めに日本で東京美術学校等を紹介されたりしていきまして、そのものが長らく個人の方から東京美術学校に寄託をされていて、それを美術学校の学生さん、あるいはいろいろな画家などが古代オリエント品として直に触れる資料ということで見てきたものであったりしたわけです。それが現在この下関に散逸せずにある程度まとまってあるコレクションです。その一方で、岡山県というのは、非常にそのようなコレクションが色々とあるところでありまして、倉敷市の大原美術館であるとか、現在高梁市になりましたが成羽町の成羽美術館にもエジプト品のコレクションがあります。そして今度共催をする岡山市立オリエント美術館にも、エジプト品のコレクションがありまして、中国地方に4館もそういった近代日本でエジプト品を紹介するために収集していたものが残っていたりするということがあります。このようなコレクションを集合させてご覧いただいて、日本の異文化交流というものが近代化の中で何であったのかというのを、もう一度確かめていただくという非常に挑戦的でもある企画であります。単にエジプトのカイロの博物館から引っ越し展示で来ましたというようなものではなく、日本で受け継がれてきたものが実はこんな風であり、しかもそれが中国地方、下関にもあるところをどうご覧いただけるかというものになります。私ども学芸スタッフには非常に力を入れようというものでございます。また違う博物館ではありますが、岡山のオリエント美術館とも共同で、研究もしたりしつつ進めていくということで、こちらは何年かけて実現というようなものでございますが、皆様にも是非ご参加ご協力をいただいて、盛り上げていただければという風に考えております。このようなものがありまして、この辺りが来年度のメインになってくるかと思えます。この展覧会が終わりましたら、下関市の芸術文化祭が行なわれて、この後、休館に至ります。

こういった特別展の合間というか交互になりますが、所蔵品展が今年度は2本だけ開催されるということになります。このうち4月15日から開催する最初の所蔵品展について、これは先ほど収集活動のところで申し上げました新収蔵品の主なものを展示するのが1つコーナーとしてあり、もう1つは、ここにご覧いただくとおり、特集部門であります。40周年を迎える美術館友の会とのコラボレーション企画という形でございます。「美術館友の会会員が選ぶ「みたい！」下美コレクシ

	重井委員	<p>「ジョン」と題して、友の会の会員の方を中心に投票でこの美術館の所蔵品をランキングにした企画であります。こちらの作品を紹介するという企画で、こちらは重井会長さんが説明したいと思っておられるかもしれませんが、友の会40周年にかかわる展覧会で、ご覧いただければと思います。</p> <p>美術館の全面協力です。2000年でしたよね。赤江瀑さんの小説の表紙とか書かれた関係で横尾忠則さんをお呼びして、ここでトークショーをやった関係で、タイトルは忘れましたが。ポスターや香月さん、岸田さんなど魅力的な作品を選んで、展示していただくようになりました。ぜひ足を運んでいただけたらと思います。</p>
	伊東委員	<p>それと漫画家で、日本漫画家協会の会長でもある里中満智子先生。いろんな作品を作られて、ドラマや映画化もされていると思うのですが、その先生が5月25日に下関市のご協力も得て、下関市民会館の中ホールのほうで講演会を行う予定になっております。その際にも、里中先生に美術館にもちょっと寄っていただいてという風には考えております。そちらの募集に関しましては、いろんなところからお呼びがあるかと思いますが、特に市民の方々にお越しいただければと思います。この所蔵品展にも絡めながら、友の会は実施する予定です。</p>
	重井委員	<p>里中先生は下関とは直接関係ない方ではございますが、青池保子さんも結構ご高齢の部類ですし、なかなか適当な方がいらっしゃらなく、いろいろ検討していただいた結果、里中満智子をお招きすることにしました。私は少女漫画だから作品も詳しくないのですが、かなりの大御所で入場者もかなりいらっしゃるのではないかと思います。講演は友の会の会員でなくても一般の方も募集しますので、よろしければ、ぜひお願いします。以上です。</p>
	事務局 (館長)	<p>ありがとうございます。この友の会40周年記念事業が所蔵品展の167回目のものでございますけれども、最終日が友の会40周年記念の行事の日ということでもございます。美術館も協力という形で行なうものでございますので、ぜひ合わせてご鑑賞いただき、またご協力いただければと思っております。そのほか所蔵品展示につきましては、夏休みの企画として、7月26日から8月31日の会期で行う168回目の所蔵品展「美術館の夏休み～造形あそび～」という形で、これは子ども向けというよ</p>

		<p>うな感じもあるかもしれませんが、社会人の方にも加わっていただけるような内容にできればと考えております。今回の「グライズデール・アーツと下関」もそうですが、既成概念にとられない形での表現活動あるいは何らかの発信という形、より広い立場の方が参加していただけるような形になればというふうに考えております。</p> <p>そして、下関市役所の出張展示も引き続き行ないます。新年度につきましては、年度後半に美術館本体が休館となりますので、こちらでの出張展示の工夫等も致したいところでございます。</p> <p>それでは、オ その他の展覧会ですが、下関市芸術文化祭美術展も第19回となりますけれども、11月1日から11月15日、例年より若干遅めの時期になっています。参加がすこし少なくなっているところで、今回は審査員の改選等、それに伴う工夫ということもありますので、ご参加を考えられている方がおられたら背中を押していただければと思っております。それでは展覧会に関しては以上でございます。</p>
<p>エ 美術作品 資料収集 保管業務</p>	<p>事務局 (館長)</p>	<p>(4) 美術作品資料収集保管業務について、引き続き作品の収集を行ないます。下関市ゆかりのものを中心にした収集という形になりますが、コレクションを引き続き拡充していこうというところでございます。令和7年度につきましては、所蔵品のデータベース、運用しているものもごさいすけれども、これを公開して一般の方にも見ていただけるような形というのを検討しております。いよいよそれに向けての作業を行なってまいる予定でございます。美術品、収集作品の情報というのは、個人情報非常にたくさん混じって加わっている非常にデリケートなものであります。そこからどういう形で出していいのかというところでございます。こちらの予定もございすので、また成り行きを見守っていただければと思います。</p> <p>そして所蔵品の貸し付けについて、現在外部施設から要請が出ているものが9ページに示しているとおりでございます。7年度については藤田嗣治、レオナルド藤田についての展覧会が重なる形になっておりまして、藤田嗣治がいつになく注目度が高まっているのかなというところでございます。実はこの下関市立美術館にも、藤田嗣治作品のコレクションというのがございす。こちらにも河村幸次郎コレクションの中に入っているもので、たびたび出品をしているものでございす。外部でもこういったものが出品されていることで下関市立美術館蔵という形で下関のアピールもしているところでございす。</p>

		<p>そして保存修復について、引き続き作品の保存に関わる措置というものをしていくことで保存設備を更新するというようなことに取り組んでまいります。</p>
オ 調査研究業務	事務局 (館長)	<p>お手元の資料をめぐっていただき10ページですが、(5)調査研究業務について、引き続き、展覧会、収集、その他、美術館活動の基本となる調査研究の体制を整備するということでございます。こちらは学芸員の資質向上も含めての努力ということからスタートしてまいります。先ほど若手育成の件などでも、ご指摘・ご意見いただきましたところでありますが、いろんな情報をいろんな関連性といったものを、ぜひ美術館にもお寄せいただいて、一緒にこういった調査研究に資する形をとっていければという風に思っております。ぜひ遠慮なくそういった方のご紹介をいただくなど、また何らかの情報など含めて、どんどんご協力いただければという風に思っております。</p>
カ 普及教育業務	事務局 (館長)	<p>続きまして、(6)普及教育業務について、こちらも引き続き、講座、ワークショップといった美術館の中で行なうもの、それから出前講座、出張イベントといった形も含めて実施するもの等を引き続き工夫して参りたいと思っております。特に、11月後半以降は美術館本体を閉めてしまう形になるので、ここでいろんな出張型のもの、例えば生涯学習プラザをお借りするとか、そういったことも含めて、あるいは市の文化振興財団とコラボして何かといった形をまた今後とっていくと思っております。今のところ具体的なメニューとしてはお示しできませんが、そういった形での休館中の活動というのは考えていきたいと思っております。</p>
キ その他の事業	事務局 (館長)	<p>(7) その他の事業、こちらは下関市立美術館友の会との連携でございます。先ほど友の会会長からご説明をいただきましたけれども、いよいよ40周年ということでございますので、これに向けたイベント等、協力体制で実施していくという形になります。そして、引き続き、美術館のエントランスホールで売店を友の会で運営していただいておりますが、こういった来館者サービスでの協力体制も引き続き行なっていく予定でございます。</p> <p>そして、イの地域イベントへの参加協力ですが、先般もありましたけれども、「城下町長府ひな祭り」等の地域イベントの参加も行なっているところでございまして、このあたりもネットワークをより広げていきたいところではございます。ぜひまたお知恵をちょうだいしたいと思っております。</p> <p>そして最後の11ページのところでございますが、その他の</p>

		<p>文化芸術関係団体との連携でございます。地域の活性化を目的とするアートプロジェクト、イベント、そういうものがたくさん行われております。下関市文化振興財団でも非常にたくさんのメニューが提供されているところであります。こういったものがそれぞれ、もうひとつ連携性というのが欲しいところだったりもするので、そういったところを何らかでつないでいく努力、美術館発のものも含めて考えていかなければと思っているところでございます。文化振興財団とのコラボレーションという例では、美術館40周年の時も共催型のコンサート事業を市民会館で開催させていただいたこともありました。こういった形で冠イベントだけではなく、何らかの平常運転としてのプログラムが必要だと考えております。美術館も学芸の体制が少し変わりますので、このあたりで動き方を変えていけるのではないかという風に考えております。以上でございます。</p>
<p>質疑</p>	<p>清永会長 山中委員</p>	<p>ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問・ご意見がありましたらご発言をどうぞ。</p> <p>個人的に新年度の特別展「古代エジプト・ふしぎ発見！」がすごく楽しみで、記憶が確かなら10代の頃に美術館でエジプトのものをを見て、すごく衝撃を受けました。エジプトのものが下関市立美術館にあるのだと思って、覚えているので多分それがまた展示されるのではないかなと思って、すごく楽しみにしています。ほかにもいろいろ昨年度の事業の中でもワークショップ等もすごく充実していて、子どもたちが参加できるものもたくさんされていると思います。私がラジオ局に勤めている時は自分で紹介して、実際に子どもが小さかったので、たくさん連れてきて、楽しませていただきました。やはりそういった参加できる、美術館でこんなのやって面白かったという思い出があると、そのあとにも多分繋がりやすくなると思います。中学生になっても高校生になっても、「ちょっと美術館に行く」となったとき、行ったことがなければ、「行かない」となると思いますが、1回でも2回でもそういう思い出があると、「ちょっと行ってみよう」となると思います。そういった小さいお子さんたちはもちろんですけども、中学生・高校生とか、定期的に美術館に来られるようなワークショップのようなもの、何か楽しめるものというのはすごく大事だと思います。そういうことでいうと、若手のアーティストさんたちが、市内の高校とかだと卒業生がこんなことをやっていますというのは、ある程度、卒業生を母校に招いてトークをしたりとかする授業があり</p>

		<p>ます。そういうところで、こんなアーティストになっていますという方もいると思うので、高校にアタックしてみるといいかもしれません。私の印象では、周りの若い人たちが美術関係に興味を持っているという、商業デザインは取り掛かりやすいと思います。自分が知っているお茶のペットボトル、これをデザインした人が、こんな他のものもデザインしていますとか、下関関連の方でも商業デザイナーなどもいらっしゃると思います。さらに今は、デジタルアートに興味がある方が多分すごく多いと思うので、そういった系統の展示をすると、若い人たちも興味を持ってもらえるのではないかと思います。お話があった「わくわくバスツアー」も4町の方々に来てもらい、待っているというのではなく集めていくという積極的な体制というのはすごく大事だと思うので、また続けていただけたらいいのではと思います。以上です。</p>
	清永会長	<p>ありがとうございました。美術館に対する期待などを含めて5つの点からお話いただきました。まず来年度の特別展に対する期待。それから、ワークショップ、子どもが参加できるような参加型ワークショップの充実化の必要性。そして高校への働きかけ。さらに4つ目として、展覧会の企画展を考える際に、商業デザイン、プロダクトデザイン、デジタルデザインといったものをもう1つの切り口として企画を組んでいくとより接点を作りやすい、出しやすいのではないかと、集客に繋がるのではないかと。最後は「わくわくバスツアー」ということで攻めの集客にしていられるべきではないかというお話でございました。これについて、館長の方から何かコメントございますか。</p>
	事務局 (館長)	<p>逆順になるかもしれませんが、商業美術・商業デザインといったところですが、実は下関出身の作家さんと何人かコンタクトを取ったりしているところもあったり、そういう情報が寄せられてきているところもあったりします。実は今年度デザイン監修で入っていただいているデザイナーさん、「グライズデール・アーツと下関」のポスターとか、その前の「青池保子展」のポスター、チラシも実は1人のデザイナーさんが担当しております。長府出身の方で、「ブーギーデザイン」というデザイン会社をやっておられる方で小川光一郎さんという方がおられます。かねてから、非常に書籍の装丁などで面白い仕事されていると思い、見ておりました。たまたま帰省された時、美術館に寄られて面識がありましたので、いずれ何かしましようというのが今回の話になっております。書籍のデザインや国立劇</p>

		<p>場のポスターとかも手がける方も下関市出身でおられたりします。そのような方もおられたりするので、このグラフィックデザイナーだけじゃなくプロダクトといいますか、そのような方もおられたりします。ここで非常に頼りにしているのは東亜大学の芸術学部のアートデザイン学科の皆さんです。芸術学部というか、旧デザイン学部時代からずっと30年以上であります。卒業生の方の中でも、かなりいろいろな分野に進出されている方がおられると思います。関わられた教員の中でも、清水要先生というデザイン界の大御所のような方がおられたりするので、下関との接点ということで、デザインというのをこれからどう見ていこうかという所があると思います。あるいは建築とか工学的な部分のお仕事をされている方でも非常に注目すべき方もおられると思います。現在、美術館の渡邊館長補佐は美術館の建築についての調査研究を進めているところです。こういったところも含めて、「この建物はなんだろう。」というところも、非常に面白い材料がある、ありそうな研究成果が徐々に出てきているように思われます。そういったところと建築デザイン、あるいはもっと広げて工学または理科学系のフィールドとかも繋いでいったものが、これから可能性があるのではないかと思います。もちろんアニメや漫画といった部門もそうですし、あと映画、映像、こちらの取り組みをどうするかというのも、映画作家の方などもやはり国際的に活動されている方とかもあつたりするということです。今まで美術館であまり扱ってこなかったジャンルの方にも登場いただく形を考えていこうという所でもあります。</p>
	清永会長	<p>5点あるのですが、特別展への期待ということとワークショップ、参加型プログラムとしてのワークショップの充実化。あと商業デザインの件と「わくわくバスツアー」のような集客をやるということと、OB等々ですね、高校と繋いで下関で活躍されている方を注目していくための接点としての高校との繋がりとというのも少し大切にしたらどうだろうというようなお話だったと思います。</p>
	事務局 (館長)	<p>ランダムにお答えすることになりますが、いろんな出身者の方となりますと、まずはこの委員の皆様方から、このような人材がいるよというところで、いかにも芸術文化などではないジャンルにも、実はアートに関連する発想の方や活動の方がおられると思います。そういったところの開拓ということで、何かしらおいでであれば、同じ芸術でも音楽、演劇、その他の舞台芸</p>

術というような、身体パフォーマンス系の方とか、未開拓でもあります。ぜひ、そういったあたり、どんどん押し出していただければと思っております。そういった連携もですが、これからそういった道に踏み出すかもしれない可能性がある方、どうやって呼ぶかということで、教育委員会でのバスツアーの企画も、美術館もなんとか次に入れてほしいということで、また4月の校長会などでもお願いに上がる予定でございます。いざとなれば、美術館で予算化して何か周遊ではないですけど、学校から来ていただくような展覧会企画に連動したようなものを設定すると、今の教育委員会の運営の成果というところで、どういう方法論が立てられるのかというところを研究しまして、教育委員会の枠に入れてではなく、美術館としての単体でやるのかどうかというのを少し検討したいと個人的には思っているところでもあります。そのような形で増やしていくというか、さらにネットを細かくしていく、シナプスを増やすみたいな形のことできないとなかなか下関自体がやはり社会というか、共同体として高齢化とか人口減少とかそういった問題を抱えている中で、どうしていくかというモデルといいますか、集客数が多い少ないという問題もそうなのですが、少なくなるのはもう仕方がない状況でもあります。その中で、どう質を上げていくかということも、もうひとつ考え、発想を変えて来館者数ではなくて、どういった形で実質的な成果を上げていくかと思えます。そこは文化財の散逸を防ぐための活動であったり、保存に関わることであったりというのも、非常に美術館の基本的な使命でもあります。そういったところも理解をいただいて、逆にそういった展覧会を見に来るという活動に、そういった形の美術館への参加ではなく、支える活動、ここはこれまで美術館友の会などを中心にして支えてきていただいたわけですが、それ以外でも普及教育の活動だとか収集保存とかそういう調査研究にかかわることも、どんどん参加していただくような形というようなものを取っていくということなのかなと思います。そのひとつのとぼ口的な試みとして、今「グライズデール・アーツと下関」展で行ったのが、「美術館で夜活」というイベントです。これは、夜6時半から8時ぐらいの時間帯設定で、展覧会作りに参加しませんかという形で、参加者を募って行なったものであります。今回は15人程の参加でしたけれども、この講座は何をやっていたのかも含めての戸惑いも含みつつ、何かしらこういうものづくりというか、企画運営に携わるということを、実際にやられてみると非常に喜ばれ、そういった喜びというものを発見される方もあり、こうい

		<p>った方が今後のいろんな展開の種や芽になって行く方々なんじゃないかなと思ったりもするので、そのあたりの拡充を考えたいと思います。この夜活をしたのはなぜかという、お仕事なんかがあるので、土日もそういったイベントに参加しにくい、そういったものをメニュー化したというものであります。かつては美術館も造形教室で夜の部をやっている、陶芸初級講座や油絵初級講座を6時～9時の時間帯でやっていたこともあります。なかなかその辺が続けられなくなり、しばらくなかったものですから、今回久々にそういうものをやっていたところでもあります。この辺りもまた引き続き、第2期、第3期とやれたらと思っています。また、美術館のメンバーになっていただけるといいなと思います。これは若い方、小学生は難しいと思うんですけども、中学生・高校生、部活動とか学校の授業とかがあって難しいだろうとは思いますが、部活動の外部委託化みたいことがある中で、美術館はそういう一端を担えるはずであろうと思いますので、そのあたりを努力していきたいと思っております。以上です。</p>
清永会長		<p>ありがとうございます。その他の発言、ご質問、コメント等ございましたらぜひどうぞ。</p>
	藤井委員	<p>毎年下関市の中学校の美術館の子どもたちの展示が約1週間弱ですけど開催されます。皆さん素晴らしい作品が出されていたと思います。ただこのロビーの横と休憩室ですが、その使い道は、今ご自由に休憩していただきという形になっています。そこで美術部員ではなくて、小学生でも幼稚園でも高校生でもいいのですが、自分の作品をみんなで見せたいという子はきっといると思います。それから家族の方が、もちろんすごく描いているのでみんな見てくださいという、そういう子どもたちの作品を展示させ、自分で持ってきて、自己責任で片付けるという形でしてもらおうと、やっぱり見てもらって、子どもは伸びると思います。褒められて、すごいね、飾っているね。それもこの美術館で飾ってある。美術部員が綺麗に展示会で飾るようなそんな作品にはできないけれども、ご自由にお使いくださいのギャラリーの中で利用させてもらうというのは、とてもいいことだと思うのですが、いかがでしょうか。今は休憩するだけですよね。その壁とかにもちょっと絵を飾るとか、自分が作った陶芸とかを置くとか。それを置くことによって、子どもはここで飾ったよとか、ちょっと見てねとか、それで広がっていただけていいかなと思っているのですが、いかがでしょうか。</p>

	事務局 (館長)	<p>その利用方法を考えていただければと思います。</p> <p>非常に魅力的なご提案ありがとうございます。喫茶のスペースは営業される方が撤退されて久しくそのままですけれども、今も大学生が作った模型なんかを展示しています。こういうものを恒常的にやれるかどうかというところも含めて、コーナー化しても良いのかもしれないなと思いました。その枠組みを検討させていただきたいという風に思います。それに絡めての喫茶スペースですが、施設使用という制度では、展示室4と講堂を展覧会の目的としたものに貸し出しをしますというのはありますが、それだとあれだけの大きなスペースをうめる作品を用意して、作業をする人手も用意することになりハードルが非常に高いです。そういった自主的じゃないですけど、持ち寄り型のものというのが、どうできるのか。作品の管理とかもありますけれども、そのあたりが、例えば学校の部活動などでチャンネルを通して、共同でやるというような形というのは、仕切りとしてはやっている意義があるのではないかと私としても思います。</p>
	藤井委員	<p>若い子の中でアニメが流行っています。漫画を描くのがすごく上手だけれども、部活にも入ってないし、ただ自分で描いているぐらいで、まわりの子が「お前は絵が上手だな」と言って、みんなに見せてやるという感じのそういう子がいます。そういう子はそういう場所で展示することによって、やはり伸びるのではないかと思います。幼稚園の子どもでも、自分の描いた絵を額縁に入れて飾ってあるとそれは立派なものに見えますし、ここに飾ってあるとおじいちゃんおばあちゃんも喜ぶし、どんどん才能が伸びていくのではないかと。美術館でも若い子を育てるというのも、大事なかなと思います。お年寄りの方は、各地区で産業文化祭があるので、そちらの方で展示をされていますし、学校単位で書道を書いたり、展示をしていますけど、見えないところで、そういう芽が育っているのではないかなというのも考えています。ぜひ美術館でその役割を果たしていただければと思っております。</p>
	事務局 (館長)	<p>付け足しでご説明しますと、市の芸術祭、市美展と言っていますけれども、下関市の市美展は16歳以上で、年齢が高校生以上みたいな形になっています。例えば私ども他市の市美展の審査のお手伝いで、行ったりすることがありますが、例えば宇部市の美術展だと小学生も出品してよくて、出品料もゼロでと</p>

	<p>五十嵐委員</p> <p>清永会長</p>	<p>いう枠があります。社会人に混じって、子どもの部などでもなく、全部同じ土俵でやるというのがありまして、それに夏休みの工作みたいなものも結構出てきたりするのですが、ただその中で非常に、言ってしまうと天才的なひらめきある作品が結構あります。上位の賞を出してしまうような非常に面白い作品があったりします。そんな形で、市民ギャラリーにて春・冬で、美術館でも学校の課題で制作された造形展、それぞれありますけれども、こういった授業の枠組みというのではなく、そこから離れた自由な制作という部分で発表の場があるようなところがあると思います。そんな受け皿ができるというのと宇部の審査に手伝いに行ったりすると思ったりします。逆にそれは社会人にもものすごい刺激になっていると思います。そのような、年齢に関係ない土俵みたいなのができるようなことも考えていきたいです。これはまた五十嵐先生にご相談なのですが、芸術祭の運営の形もどんどん高齢化とか、人数減少みたいなところがあるので、そういった広げ方というののもあっていいかなと思います。</p> <p>実は、文芸部門のほうは大人がほとんどなのですが、そのために小中学生川柳という部門を作っています。これに本当素晴らしい作品が市内の学校からも、500点、600点集まります。そんな形で美術部門にも、小学生部門とかそういうのがあるといいなと思いました。やっぱり小学生とか中学生とかにもすばらしい子がいますので。ちょっと考えさせてください。</p> <p>ありがとうございました。その他、この第2の令和7年度の事業計画という中で発言ございますか。では、特にさらなるご質問等々ご意見ございませんでしたので、第2の議題については、これで報告済みということにさせていただきたいと思います。</p>
<p>6 その他</p>	<p>清水会長</p>	<p>さて、本日の議題に関しては以上でございますが、最後に、6 その他というものがございます。それぞれの委員の方で全体を通してご意見、ご助言等この場で頂けたらと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>特にございませんでしたので、それではこれもちまして、会議を終了させていただきたいと思います。本日は円滑な議事進行にご協力を賜りまして、ありがとうございました。それでは進行の方を事務局に戻させていただきたいと思います。よろ</p>

		しくお願いします。
7 閉会	事務局 (館長)	<p>本日はどうもありがとうございました。大変貴重なアイデアをいただきました。美術館としましては、老朽化対応をしつつ、何とか生き延びるだけじゃなくて、何か膨らませていけないかという風に考えているところでございます。また今後は長府地区の整備問題があります。長府苑を市が取得したことによって、この長府黒門界限の整備プロジェクトがこれから展開されていくことになろうと思います。長府苑、長府庭園、美術館と関見台公園があり、このエリア、都市公園としてどうなっていくかということも注視される場所でもありますけれども、そうなる場合に結節点になるのがこの美術館でもあると思いますので、また計画などが進んでいく中でも、いろんな皆さんのお力をいただいて、あるいはご意見、あるいはアイデアもいただきながら、新しい形で美術館が展開できると思っておりますので、ぜひご指導よろしくお願いたします。</p>
	事務局 (副館長)	<p>はい、長い間、ありがとうございました。これを持ちまして協議会の全日程を終了させていただきます。今日は大変ありがとうございました。</p>